

昨今の教育課題について学習を深める

2023/06/09

愛教組連合拡大学習会

6月9日、組合員約200人の参加のもと、愛教組連合拡大学習会が開催されました。藤田医科大学病院 医療福祉・心理相談室の水野幸さんにご講演をいただき、ヤングケアラーの事例を交えて、MSW（医療ソーシャルワーカー）とのかかわりや、その支援のあり方について学習を深めました。

講演会

演題：「ヤングケアラーへの支援を考える～医療ソーシャルワーカーの立場から～」

講師：水野 幸さん（藤田医科大学病院 医療福祉・心理相談室）



○ストレングスについて

ストレングスとは、支援者がもっている強みや「できること」。ストレングスがない人はいない。これは学校現場が一番理解しているはずである。

○意思決定支援について

本人への支援は、自己決定の尊重にもとづいておこなうことが大切である。それは職員等の価値観において不合理と思われる決定でも、他者への権利を侵害しないのであればその選択を尊重するようにつとめる姿勢が求められる。

○ヤングケアラーを支える仕組みづくり

ヤングケアラーは「神輿」に例えられる。保健所や医療機関だけではなく、学校・行政・スクールソーシャルワーカーとも連携し、みんなで支えることが必要である。

○今後の課題とまとめ

対象者を早期発見するための取り組みが大切である。ヤングケアラーに対する支援の仕組みは現在構築中だが、行政や関係機関とさらなる連携をすることが大切である。

参加者の声

- ・ヤングケアラーの支援には、多くの人たちがかかわっていく必要があり、医療ソーシャルワーカーと子どもたちをつなげるように、子どもとかかわりの多い教職員がアンテナを高くすることが大事だと感じた。
- ・ストレングスの考え方について、教育に携わる者として大切にしていきたいと改めて感じた。ヤングケアラーとなっている児童生徒の早期発見につとめつつ、関係機関を頼りながら、神輿のようにみんなで支えていくことを覚えておきたいと思った。
- ・実際の事例を交えての講話であったため、イメージがしやすかった。学校の教員として支援をしていこうとなると、なかなか難しい部分もあるとも感じた。早く気付いてあげるためにも、やはり教員の数を増やしていかないと厳しい。
- ・特別支援学校に勤めており、ヤングケアラーの生徒がいる。多くは経済的理由であったり、保護者も障害者であったりする場合が多い。行政や地域に支援をしてもらっているが、やはり学校の負担の大きさを感じている。今回の講演を聞いて、MSWについて初めて知り、今後必要であればかかわっていこうと思った。